

いじめ防止対策推進法施行(2013/9/28)以降の重大事態 調査委員会
【 いじめ・指導死が背景要因に疑われる自殺・自殺未遂(1号事案) 】

※ あくまで武田個人がネットや報道等で調べた範囲内の情報です。全てを網羅しているわけではありません。

2013/9/28		いじめ防止対策推進法施行				
No	事案発生日	適用	概要	調査委員会の設置・調査内容	調査委員	報告書・その後
80 -1	2018/1/5	自殺	<p>愛知県名古屋市名東区の市立中学校の女子生徒・斎藤華子(かこ)さん(中1・13)が、部の合宿で自宅を出たあと、マンションから転落死。遺書はなかった。</p> <p>この日は7日までの2泊3日の予定でソフトテニス部の合宿があり朝早くに家を出ていた。</p> <p>女子生徒は2017年9月、県外から転校し、ソフトテニス部に入部。</p> <p>2018/1/-3/ 市教委は、教員や生徒を対象にアンケートや個人面談を実施。アンケートには部活動などで人間関係のトラブルがあったという記述があったが、市教委は「直接的な自殺の原因は特定できない」との調査内容をまとめた。</p>	<p>市教委の調査結果に納得ができなかった遺族側が第三者委員会による調査を要求。</p> <p>2018/5/18 市教育委員会の第三者委員会「名古屋市いじめ対策検討会議」(常設)が調査。</p> <p>いじめの有無も含めて原因を調べ、今年度中に報告書をまとめる方針。</p> <p>8月、既に遺族や学校からは話を聞いている。</p> <p>9月から部活動の仲間や同級生らに聞き取りをする。検討会議は、臨床心理士や精神科医などで構成。</p> <p>13回の会議</p>	<p>臨床心理士や精神科医ら6名。 会長：山田 敦朗 精神科医 名古屋市立大学大学院医学研究科 講師・ 副会長：犬飼 敦雄 弁護士 犬飼法律事務所 所長</p> <p>・小竹 佑一 学識経験者 元名古屋市立中学校長 ・杉原 里子 社会福祉士 春日井市スクールソーシャルワーカー ・坪井 裕子 臨床心理士 人間環境大学人間環境学部 教授 ・鈴木 真佐子 精神科医師 名古屋市立大学大学院医学研究科 助教(本事案の検証期間中、欠席)</p>	<p>2019/4/12 報告書では部活の練習時間が長く、休みが少なかったことから疲労が蓄積していたが、真面目な性格から「合宿を休みたい」と言い出せず、行き場所を失って自殺したと結論。 2018年1月に実施した生徒を対象にしたアンケートでは「力士と呼ばれていたそうだ」「無視をされていたりしたとは聞いたことがある」との記述があったが、報告書では「いじめ行為があったとまでは認められない」とした。</p>

			(2018/8/17)初めて報道。			
80 -2		再調査	遺族は、第3者委には調査される側でもある市教委の職員が居合わせ中立性、公平性が保たれていない上、いじめがなかったとする根拠が乏しいなどとして報告書の内容を不服と主張。「1年以上にわたり2度も調査を実施したにもかかわらず、何一つ遺族が納得できるものが提示されなかった」として、市に対し再調査を求める。	2019/6/ 市長は遺族と面談し、再調査する方針。 2019/9/10 名古屋市は再調査する費用など約1億 4000 万円の補正予算案を提出。 内 600 万円は当該再調査費。 2020/3/14 初会合 当時の同級生 100 人以上から聞き取りを行う方針。 全会の調査結果の検証も同時に進める。	委員長:安保 千秋 弁護士	
81	2018/1/27	自殺	大阪府大阪市の市立中学校の男子生徒(中1・12)が、深夜に自宅マンションから転落死。 2017 年 5 月に学校が実施したいじめアンケートで「ある」と答えていたが、担任による教育相談には小学校時代の話だと答えたという。 その後、2学期に行ったアンケートや相談では、いじめを受けているとの訴えはなかったという。 担任と養護教諭が様子	2018/5/22 市は遺族の意向を踏まえ、市長部局に、執行機関の付属機関に関する条例第1条に基づく「児童等がその生命等に著しく重大な被害を受けた事案に関する第三者委員会（以下、第三者委員会）」に、新たな部会として、「平成 30 年大人事人第 54 号に関する部会平成 30 年大人事人第 54 号に関する部会」を、設置。 2018/5/29 平成 30 年大人事人第 54 号に関する第 1 回部会開催	部会長: 藤木 邦顕 弁護士 部会長代理: 藤木 秀行 弁護士 ※部会長の藤木氏と代理の藤木氏には姻戚関係なし。 偶然、名字が同じ。 委員: 川原 稔久 大阪府立大学 教授 平井 美幸 大阪教育大学 講師 専門委員: 磯部 晶子	2020/3/26 調査委員会は、 ・「チビ」「メガネ」「いきっている」などと言われる ・筆箱を投げられる ・プロレス技をかけられる ・LINE(ライン)で「何かおごれよ」と言われたり、返信をほとんどしてもらえなかったりする——などをいじめと認定。 生徒は学級代表に立候補し、合唱コンクールで指揮者を務める一面もあったが、いじめで自尊感情を傷つけられ、次第にクラスや部活動で孤立感、無価値感を深め、自殺以外の解決策が思い浮かばなくなる「心理的視野狭窄」に陥ったとした。 また、7 月の学校アンケートでは、友達からの無視やからかいについて「あてはまる」と

			に注意していた。	http://www.city.osaka.lg.jp/jinji/cmsfiles/contents/0000437/437010/09gjjiroku.pdf 37 回会議	清水 周 林 揚子 http://www.city.osaka.lg.jp/jinji/cmsfiles/contents/0000437/437010/01meibo.pdf	回答。専用ソフトが「早急な支援が必要」と内容を解析したが、学級担任が教育相談などに利用した形跡はなかった。 保健室を頻繁に訪れ、涙を流したこともあったが、副担任には「何もない」と答え、保護者や校長に情報が伝わらなかった。 学校の対応についても、警察が自殺を前提に捜査中と知りながら、調査や遺族への対応が、事故死を前提とした恣意的なものであった可能性を否定しきれない」と指摘。 また、校長の保管の指示にもかかわらず、学級日誌が廃棄されたり、亡くなった生徒のアンケート結果が削除(第三者委調査で復元)されたりしていたといい、「廃棄が意図的である可能性を考えざるを得ない」と批判。 報告書 143 頁 https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/jinji/0000497841.html
82 -1	2018/5/17	自殺	熊本県北部の県立高校の女子生徒(知華=ともかさん)(高3・17)が自宅で自殺を図り、18 日未明に死亡。 女子生徒は同日、3時限目の授業終了後に体調の不良を訴えて早退。午後、自宅で意識を失っているところを祖母が見つけ、病院に運ばれた。	2018/5/28 県教育委員会は、遺族の要望を受けて、第三者の専門家で構成する付属機関の「県いじめ防止対策審議会」を開いて調査する。 全校生徒を対象としたアンケートや、生徒や教員への聞き取りを通して当該生徒を取り巻く人間関係や、自殺を図った前日や当日の出来事を調べていた。	弁護士や医師、福祉などの有識者ら6人。 会長: 岩永 靖 九州ルーテル学院大准教授 精神保健福祉士 会長代理: 浦野エイミ 熊本大学大学院教育学研究科 シニア教授 臨床心理士 園田 理美 弁護士 (H30.7.31 まで) 園田 将吾 弁護士	2018/12/20 中間報告 自殺を図った日に、女子生徒が知り合いの男子生徒と一緒に映っていたインスタグラムの動画をめぐり、同級生に理由を確認されるなどのやりとりがあったことや、授業中に複数の生徒の間で「視界から消えてほしい」、「死ねばいい」などの発言があったと認定。ただし、「死ねばいい」の言葉については、「生徒たちがふだんから使っていた言葉でもある」とし、いじめかどうかについては触れなかった。

			<p>自宅の居間に、同級生から「よう学校に来られるね」「死ねばいいのに」などと言われたことや、「誤解なのに」「とても苦しかった」「もう死にたい」などと手書きした遺書が残されていた。学校側に相談したことも触れていたという。</p> <p>2018/5/27 同校関係者は「現時点でいじめやトラブルは把握していない」という。</p> <p>2018/6/15 学校が同学年生徒から聞き取りした結果をまとめた調査報告書を両親に渡す。自殺の原因が別にあるように受け取れる部分があり、遺族は遺書と矛盾しており納得できないとする。</p> <p>遺族は娘の自殺直後に保護者会の開催を求めたが、何度も先延ばしされた。</p>	<p>2018/6/ 初会合で、委員のひとり「事案の関係者と関係があり、中立性が保てない」として辞任。</p> <p>2018/7/末 委員一人が体調不良を理由に辞任。</p> <p>2018/11/末 (9回の委員会開催後に)一身上の都合で所属先を辞めたことを理由に辞任。</p> <p>審議会の委員3人が立て続けに辞任したことについて、遺族に辞任理由の説明も十分ではなかった。</p> <p>遺族側は委員の推薦を希望したが、県教育委員会は、「(加害者側などに)中立性が保てない」として拒否。</p> <p>委員の辞任後も、推薦希望を聞いてもらえない。</p>	<p>(H30.9.6 から) 熊本県弁護士会 子どもの人権委員会委員 高原 朗子 熊本大学大学院教育学研究科 教授 (H30.11.30 まで) ハッ塚 一郎 熊本大学大学院教育学研究科 准教授 (H30.12.7 から) 宮本 武夫 熊本県民生委員児童委員協議会 会長</p> <p>臨時委員 高森 薫生 熊本県精神科協会 理事 (H30.8.9 から)</p>	<p>中間報告書 http://kyouiku.higo.ed.jp/page2007/page9769/</p> <p>2019/3/26 報告書提出 5件のいじめを認定。 校外で他の生徒が男子生徒を撮影し、写真共有アプリ「インスタグラム」に投稿した動画に当該生徒が写り込んだことがいじめの引き金になったと判断。複数の生徒らによる「死ねばいい」「よく学校これたね。まじウザ」「視界から消えてほしい」などといった一連の発言は、いじめに該当すると認定。学校で「死ね」などの暴言が日常的に使われていたとも指摘した。</p> <p>また、インスタグラムの動画を他の生徒に見せ「どう思う」と聞いた行為や、動画を上げた生徒のところに連れて行き、偶然映り込んだだけなのかどうかを確認する行為、など4件もいじめと認定。</p> <p>そのうえで自殺との因果関係について、一連の発言が遺書に記載されていることや、その他の行為も「当該生徒の心理的視野狭窄を起こす要因となったと推察できる」として、自殺に影響を与えたと判断した。学校以外の出来事については「調査を行ったが、影響や要因について確認できなかった」とした。</p> <p>再発防止のための提言として、「SNSの安易な利用や投稿が、誰も予想していない深刻</p>
--	--	--	---	---	---	---

						<p>な事態を引き起こす可能性があることについて、再度指導の徹底を図る必要がある」と指摘した。</p> <p>2019年2月、卒業アルバムに知華さんの写真が一枚も載っていないことが判明。事前の説明は一切なかった。完成後に知らされた遺族は掲載を求め、学校はすべての卒業アルバムに知華さんの写真を貼り、配布した。</p>
80 -2			<p>2019/5/21 遺族は授業中だったにもかかわらず教員が発言を認識していないなどの点を問題視。「教員たちの対応への調査が不十分」として再調査を求める。</p>	<p>2019/5/21 県は再調査を決定。知事のもとに設置されている常設の第三者委員会。</p>	<p>5人 弁護士や医師など</p> <p>委員長:古賀 倫嗣 熊本大名 誉教授 委員: 古賀 香代子 九州ルーテル学院大学教授(心理) 紫藤 千子(しとう・ゆきこ) 紫藤社会福祉士事務所 古田 哲朗 弁護士 横田 周三 医療法人横田会向陽台病院理事長</p>	<p>2020/4/30 報告書提出 いじめと自殺の因果関係を認定。「死ねばいい」などの発言が飛び交ったのは生徒が自殺を図った当日の授業中。担当教員は「発言は聞こえていたが、具体的な内容まで理解できなかった」と証言したが、答申は「(自殺後)すぐに当時の状況を振り返り、記録に残す必要があった」と結論。また、生徒が涙目になって早退を申し出た際の担任の対応には、過去に早退がほとんどなかった点を踏まえ「普段とは異なった態度をもう一步深く掘り下げ、迎えに来た親族に伝えることはできたのではないか」と言及。</p> <p>概要版 10頁 https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_3296_1.html</p>
83	2018/6/22	自殺	福岡県久留米市の県立高校の男子生徒(高2・	2018/7/ 県教育委員会は、「重大事案」とした上で専門家など	大学教授や弁護士ら	2019/3/27 報告書 報告書では、同年4月から同学年の部員 5

		<p>16)が自宅で首を吊って自殺。 生徒はスマートフォンに、同学年の野球部員数名の名前をあげ、「色々言われて限界やった。生きているだけで苦痛だったよ」などと書いていた。 当該生徒は、所属していた野球部の部員から、集団で服を脱がされたりスマートフォンなどを隠されたりするなどの嫌がらせを日ごろから受けていた。自殺の直前、部内のLINEのグループから自分だけ外された。</p>	<p>による第三者委員会を設置。 野球部の部員や教員などおよそ 30 人から聞き取りを行うなど事実関係を調査。</p>	<p>部会長:大坪 靖直・福岡教育大学教授</p>	<p>人からズボンを下されたり、ベルトを取られたりしたほか、3 人からスマホ複数回隠されるなどしていたとして、いじめがあったと認定。 その上で、自殺当日(2018/6/22)、主将が発表する夏の高校野球福岡大会の対戦相手をスマホで調べて、後輩らに先に話したことを非難されたり、同級生約 10 人のLINEのグループから外された。練習前、通学用とスパイクのひもを結び付けられもした。これらのいじめも加わって衝動的に自殺に至ったとして、いじめと自殺との因果関係が認められると結論。ただし、「(いじめに関わった)ほとんどの部員に、いじめていたとの認識はなかった」とした。 なお、学校はほぼ毎月、いじめなどの有無を問うアンケートをしていたが、男子生徒は被害り申し立てをしておらず、担任との定期的な面談でもいじめのことを話したことがないという。 2019/6/18 日本学生野球協会は、同校の野球部を 9 月 26 日まで6か月間、対外試合禁止にする処分を決定。 2020/5/27 当該生徒への暴力行為法違反容疑で、家裁送致されていた元野球部員3人のうち、2人が不処分。 2020/6/8 残る1人も不処分。 (いずれも少年審判開始決定は、2020年5月</p>
--	--	---	---	---------------------------	---

						18日)
83				県が、再調査を判断する委員会を設置。		2020/9/28 県が設置した委員会が8月、再調査を不要とする答申書を県に提出。 県は、いじめ防止対策推進法に基づく再調査をしないことを決めたと発表。 いじめに関する事実関係がこれまでの調査で明確になっていることや、遺族側から再調査の要望がないことなどが理由。
84	2018/6/27	自殺	新潟県下越地方の県立高校の男子生徒(高3・17)が行方不明になる。 6/28 遺体発見。 男子生徒の自室には書き置きがあり、スマホにはいじめについてのメモが残されていた。 7/12 校長らが記者会見し、複数の生徒から嫌なあだ名で呼ばれたり、SNS上で中傷されたりするいじめを受けていたと発表。 自殺を把握した後に、聞き取りやアンケートをした結果、いじめがあったという声が複数あった。 加害生徒も、聞き取りに対して反省の態度を示したという。	2018/9/11 県教育委員会が設置する「県いじめ防止対策等に関する委員会」(第三者委員会)は、今回の案件を担当する専門部会を立ち上げた。(4号案件) 2019/2/13 会議 http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/1356869810811.html 2018/7/-8/ 男性教諭(50歳代)が、生徒の家族らに対し、早朝や深夜などに電話やメールで数十回にわたり面会を要求。このため、家族は心身の不調を訴えた。また、同教諭は同じころ、生徒の親族と面会した際、不適切な言動をした。	部会長:伊藤 真理子 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科・教授、臨床心理士 委員: 遠藤 太郎 新潟こころの発達クリニック・医師 三浦 修(おさむ) 新潟青陵大学福祉心理学部社会福祉学科・准教授 小淵(おぶち) 真史(まさふみ) 新潟合同法律事務所・弁護士 小堀(こほり) 彩子 新潟大学人文社会科学系(教育)・准教授 川上 克(まさる) 新潟県高等学校PTA連合会・前会長(新潟県立新潟中央高等学校・前PTA会長) http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/2/837/bukaimeibo1122	2020/1/30 報告書を提出。 男子生徒が、2年生のときから、顔にボールをぶつけられたり、LINEで脅されたりした10の行為をいじめと認定。 男子生徒が「ストレスの逃がしどころがない状態に陥り、自殺を選択した」と指摘。 1/31 報道各社に配布した報告書で、第三者委員会が非公開にすべきと判断した部分のうち、5か所がマスキングされていなかった。報道側から指摘を受けて発覚。 県は遺族に謝罪し、報道各社に対し、正しくマスキングした報告書と交換するよう、求める。

			同校が定期的に行っているアンケートでは、男子生徒へのいじめに関する記述はなく、本人も「悩みやいじめはない」との選択肢を選んでいました。	2019/3/27 県教委は、男性教諭を減給 10 分の 1(1 か月)で懲戒処分。	33_212693.pdf	
85	2018/7/3	自殺	岩手県矢巾町の県立不来方(こずかた)高校のバレーボール部の男子生徒(高3)が、自宅で自殺。自室に残されたメモには「ミスをしたら一番怒られ、必要ない、使えないと言われた」「高校でこれなら大学で生きていけるはずがない」と書かれていた。県教委は部員や教員に聞き取りなどを行った結果、「通常の指導の範囲で教諭に落ち度はなかった」と主張。	遺族は、「指導が原因」と訴えていることから、県教委は第三者委員会を設置し、自殺と指導の因果関係について調査する方向で検討。 2019/1/6 第1回目調査委員会 高校や部活動の関係者にアンケートを実施して調査を進める予定。 人選は遺族に、発表直前まで知らされなかったという。 第三者委は、 ・自殺にいたるまでの事実経過や背景 ・学校の対応 ・自殺と学校生活の関係性 ・学校や県教委の対応の妥当性 ・再発防止策など 5項目について検証、県教委に報告する。	教育学者や弁護士、医師の6人で構成。遺族から要望があったいじめ問題や指導死に詳しい専門家も選任したという。 委員長:佐々木 良博 弁護士 ・伊藤 欣司 平和台病院長 ・大御 均 山形県臨床心理士会長 ・神谷 拓 宮城教育大学 准教授 ・栗林 徹 岩手大学 教授 ・藤田 祐子 弁護士 仙台弁護士会 実務を担う3人の調査員をおく	2020/7/22 報告書提出 報告書によると、2017 年秋ごろから顧問の男子生徒に対する叱責や言動が厳しくなり、「背は一番でかいのに何もできない」「男子生徒のせいで負けた」といった発言があった。報告書はこうした発言について「いずれも、いたずらに威圧・威嚇し、人格を否定し、意欲や自尊感情をも奪うものであり、指導としての域を超え、教員としての裁量を逸脱した不適切な発言」と認定。 報告書は、顧問が選手の顔面や体に向けてボールを投げたり打ち付けたりし、そのボールが顔面に当たったことをもって、直ちに故意にボールをぶつけたと断じることが困難としながらも、当該生徒が「顧問から故意にボールをぶつけられたと感じていた可能性を否定することはできない。」とした。 また、顧問が前任校で体罰に関し訴訟が起こされていた点についても、県教委と高校の情報共有が十分でなかったとして批判。 自死との関わりについては、「教諭の叱責や発言が絶望感や孤立感を深めさせた可能性は否定できない」と結論。

						<p>報告書 概要版 https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/page/001/032/539/kyougis_hiryoul.pdf</p> <p>遺族は、「ボールを顔などにぶつけられた」として暴行容疑で、男性教諭を告訴。 2020/4/ 盛岡地検は不起訴処分。</p>
86	2018/7/17	自殺	<p>埼玉県所沢市の市立南陵中学校の男子生徒(中1)が、午前8時過ぎに高層住宅から飛び降り自殺。</p> <p>2017年にも同校の男子生徒が自殺、2019年7月5日には男子生徒が同級生を刺殺する事件が起きていた。</p>	<p>2018/8/ 第三者委員会を設置。</p> <p>2019/7/29 公表の遅れについて、市教委は当初、遺族から「大ごとにしないてほしい」と言われ「公表してほしい」と解釈した」と説明。今月、遺族から「(市教委の)認識は間違っている。家族に問題があったかのような誤った情報が流れているので、正しい情報を伝えてほしい」と要請されたとした。</p>		<p>2019/3/ 中間報告では、同級生らへのアンケートや聞き取りの結果、いじめは確認できず、家庭にも原因はないとした。自殺原因は特定できていない。 担任だった教諭(30台)は熱心に指導していたものの、感情的な面があり「生徒と同じ立場で泣いたり怒ったりしており、幼さがあった」としている。</p>
87 -1	2018/8/19	自殺	<p>三重県の県立高校の男子生徒(高1・16)が自殺。 遺書は無かったが、生徒のスマートフォンに残されていたLINEのやりとりを見た遺族が、「いじめではないか」と通ってい</p>	<p>2018/12/21 第三者で構成する県いじめ対策審議会を開催。</p> <p>在校生や教員への聴き取りを実施</p>	<p>弁護士や精神科医ら5人でつくる審議会</p> <p>審議会議長: 尾高 健太郎 弁護士 委員:</p>	<p>2020/3/6 報告書提出 7件中6件をいじめと認定。 18年5月末~8月にかけて、 ・部活動で雑用や掃除をきつい言葉で言いつけられたり、手でたたかれたりした ・部活動のLINEグループで、「かす」「いらんわ」と投稿された ・部活動のLINEグループで、「遅刻したら坊</p>

			<p>た高校に連絡。 7月上旬から8月までにグループLINE内で、いじめが疑われるメッセージが数回、当該生徒に送信されていた。また、別の高校に通う友人が弔問の際、遺族に男子生徒から受けていた相談内容を伝えたという。 学校側は4月12日と7月19日に保護者を交えた三者面談、7月10日にいじめに関するアンケートを実施していたが、男子生徒へのいじめは把握していなかった。 遺族から8月下旬に連絡を受け、9月初旬にグループLINEに参加していた生徒数人から聞き取り調査を行い、内容を遺族や県教委に報告。</p>		<p>おじま 小嶋 玲子 桜花学園大学保育 学部 教授 齋藤 洋一 精神科医 志村 浩二 臨床心理士</p>	<p>主にする」と投稿された ・貸した自転車を壊された ・公開を望まない画像をクラスメートのLINEグループに投稿された ・公開を望まない画像を友人とのLINEグループに投稿された —などの行為。 同じ部活の上級生(当時高2)3人と同級生1人を加害生徒と特定。 いじめと自死の因果関係を認定。 また、調査で男子生徒が6月頃に教諭に「先輩との人間関係に少し悩んでいる」と口頭で相談。8月11日にも、同じ教諭に「相談があります」とLINEを送っていたが、教諭は「直接会ったときに聞きます」と返信。その後連絡が途絶え、8月19日に生徒が亡くなった。 報告書は、学校が「もう少し積極的な対応をしていれば気づけた可能性もあるが、不適切であるとまでは考えていない」とした。</p>
87 -2				<p>2020/8/17 県は、県教育委員会の第三者委員会がまとめた報告書の内容を不十分とする遺族からの申し出を受け、別の第三者委を設け再調査すると発表。報告書は「いじめが原因の一つ」としていたが、加害者とさ</p>		

				れた生徒への聞き取りを実施していないことなどを、遺族が不服としたという。	
88	2018/8/21	自殺	宮城県仙台市青葉区の県立工業高校の男子生徒(高1・15)が、夏休み最終日に自宅で自殺。4月の入学直後から、担任の男性教諭に徹夜をしなければ終わらないほどの課題提出を求められ、「これはリポートではない、やり直せ」と突き返されるなどし、6月ごろには部活動へ参加することも禁じられた。男子生徒は「(自分が)みんなより劣っている」などの内容を書いた反省文を提出していた。男子生徒は母親に「先生が俺にだけ強く当たる」と話していた。また担任は男子生徒宅に弔問の際、夏休み前に別件で男子生徒を叱ったと話したという。県教委は「遺族が公表を望んでいない」と学校から報告を受けたとして、生徒の自殺を明らかにし	2018/10/31 父親(44)は県教育委員会に対し、担任の男性教諭から日常的に罵声を浴びせられたり、部活動を禁じられたりしたことが原因として、県と県教委に第三者委員会での調査を要請。 県教委は、「いじめ防止対策調査委員会特別部会」を設置。 2019/1/ 第三者委員会は全校生を対象にアンケートを実施。940人中507人から回答。「担任教諭が男子生徒に対し、おびえさせるような指導をしているのを見たか」を問う項目で、「見た」との回答が複数あった。男子生徒から「先生が怖い」と相談を受けた生徒もいた。同様の指導を受けたとの回答もあった。暴力をふるわれたとの事実は確認できなかった。	6名 部長:長谷川 啓三 東北大名誉教授(臨床心理学) ・奥山 優佳(ゆか) 東北文科大学短期大学部子ども学科 教授(教育学) ・北島 みどり 弁護士 ・神(じん) 春美 宮城県人権擁護委員連合会副会長 仙台人権擁護委員協議会副会長 ・内藤 裕子 東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科 准教授 臨床心理士 ・細川 潔(きよし) 弁護士

			<p>ていなかった(父親は否定)。 学校は一部を除き、在校生に男子生徒の自殺を知らせていなかったため、県教委は「自死を前提とした調査は難しい」と判断。自殺前に校内で実施したいじめアンケートの結果を踏まえ、「今回はいじめが原因と特定できないケースで、学校に再調査を指示しなかった」という。</p>			
89	2018/8/26	自殺	<p>埼玉県さいたま市の市立南浦和中学校の男子生徒(中1・13)が、部活動に行く途中に自殺。 男子生徒はバドミントン部に入っていたが、練習についていけず悩んだ様子だったという。夏休み中の8月25日、顧問から母親に「生徒が部活を休み、ゲームセンターにいた。明日個別に呼んで指導する」と電話があった。 2018/9/4 学校は不慮の事故として扱い、自殺</p>	<p>市教委は第三者委員会を設置。 2019年7月4日に初会合。 2020/3/28 学校側は、バドミントン部の男性顧問が過去に別の部員への暴言や体罰があったことを把握しながら、「大声で指導した」などの説明にとどめ、遺族に対し詳しく説明しなかったことが判明。</p>	<p>弁護士や臨床心理士など専門家5名 座長:岡田 弘 東京聖栄大教授</p>	

		<p>の原因は把握できなかつたと遺族に報告。</p> <p>2018/12/ 学校が全校生徒に部活に関するアンケートを実施。別のバドミントン部員が顧問から「お前はバカだ、アホ」「おまえ、存在する意味あるのか」と暴言を吐かれたり、胸ぐらをつかまれたりしたと答えた。「(男子生徒が)圧をかけられていた」との回答もあった。</p> <p>また校長は、母親に「一度休むと外周10周という厳しいペナルティーがあった」と説明していた。顧問は学校の聴取に「口調が強かったり、言い方がきつかったりした。至らなかった点は反省している」と答えたという。</p> <p>2019年3月、教師は別の中学校に異動。</p> <p>市教委は、「指導が自死の要因かどうか確認できなかった」とした。</p> <p>遺族によれば、自殺当日に校長から、自殺と公表</p>		
--	--	---	--	--

			すれば「マスコミが騒ぐ」「保護者会で遺族が説明する必要がある」と言われ、「不慮の事故」とすることに同意したという。			
90 -1	2018/8/28	自殺	<p>東京都八王子市の市立中学の永石陽菜(ひな)さん(中2)が電車で飛び込んで自殺を図り、約2週間後に死亡。遺書には、3月まで在籍していた学校の部活動での「トラブル」という言葉や「まわりが助けてくれなかった」「学校に行きたかった」という内容が書かれているという。</p> <p>2017年8月下旬、女子生徒は家族旅行で部活動を休み、写真をSNSに投稿したところ、部の上級生からLINEで批判されたり、他の部員から無視されたりして、不登校になった。10月上旬、部活顧問がトラブルについて尋ねると、上級生は「強く責めてしまった」と答え、女子生徒に謝罪。学校は、トラブルは解決した</p>	<p>市教委は内部調査をした上で「いじめがあった」と認定。</p> <p>2018/11/14 八王子教育委員会 いじめ問題対策委員会に調査を依頼。自殺との因果関係を調べる。</p> <p>職能団体に推薦を依頼。</p> <p>2018/11/28 八王子市いじめ問題対策委員会調査部会設置。</p> <p>調査開始時から、部活動の先輩との間にトラブルがあったことが当該生徒の不登校の契機と思われることが、遺族、学校、市教委の間で共通認識になっていたこと、遺書にも不登校となった理由が部活動であること等が記載されていたことから、アンケートは実施しない。</p> <p>当該生徒の保護者、甲中学生徒28名、同卒業生6名、同教員7名、乙中学校生徒2名、同中学校教員2名、市教委職員5名、警察</p>	<p>部会長:松浦 信平 弁護士 委員: 杉森 伸吉 東京学芸大学 教授 大塚 充 臨床心理士 滑志田 ひとみ 臨床心理士 笠原 祥乃 弁護士 坂倉 渉太 弁護士</p>	<p>2019/8/5 報告書提出 67頁</p> <p>陸上部で、練習を休みがちな当該生徒がSNS上で家族旅行について触れたところ、3年生の先輩BがLINEのステータスメッセージに「自慢ですか」と書いたことを契機に、非難の応報があったことをいじめと認定。</p> <p>陸ジョブの学校対抗大会に、前日は参加すると言っていた当該生徒が来ず、問い合わせに「足が痛くなった」と答えたことに対して、「足が痛くても来られるでしょ」と送信したのは「いじめ」と認定。(ただし、その後手紙を通して真摯な謝罪をし、友人関係を回復させている)</p> <p>「いじめ」が不登校重大事態の契機になっており、直接的な関連性があると認定。</p> <p>「いじめ」に該当する行為と、当該生徒の自殺との間に相当の期間が経過しており、その間に、不登校の長期化、転校、転校後の不登校、進路の課題への直面等、様々な要素が介在していること、遺書にも陸上部での出来事を学校に行かなくなった理由としているが、自殺する直接の理由とはしていないこと、転校後のいじめは認められなかったとして、「いじめ」と「自殺」との間には直接的な</p>

			と判断したが、女子生徒の不登校は 2018 年4月に別の市立中学に転校した後も続いていた。	官 1 名、その他の関係者 4 名から聴き取りをする。 12 回会議。ほか、調査方法の協議、調査結果の分析、見当等のために随時、部会印の一部または全員による打合せ。 すべての会議を市教委事務局の立ち会いなく実施。部会員のみに情報共有。		関連性は認められないと判断。 八王子市のサイト https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/003/004//003/p025372_d/fil/tyousa.pdf
90-2		自殺再調査	遺族が「不十分であり不当」として再調査を申し立てていた。	市長は市いじめ問題調査会を設置	5人 伊東 亜矢子 弁護士 倉持 政勝 弁護士 金井 美穂 社会福祉士 高塚 雄介 明星大名誉教授 西田 俊男 臨床心理士	
91	2018/11/19	自殺	兵庫県尼崎市の市立中学校の男子生徒(中2・14)が、鉄道自殺。 2017/3/ 男子生徒は小学校5年生の秋から過ごした神戸市立小学校の卒業間際、担任から男子生徒の机に「死ね」などの落書きがあったことを告げられた。 2017/秋頃、「いじめがトラウマになっている」として、神戸市立中学校から、尼崎市立中学校に転	2018/ 母親は事故後、神戸市教育委員会にも、調査を要望。両市が協議した結果、神戸市教委が当時の教員や生徒らに事情を聞くことを決定。 神戸市教委は、「尼崎市の中学校生徒死亡事案に関するいじめ問題調査委員会」を設置して、神戸市内の小中学校に通っていた当時のいじめについて詳細を調べる。 2019/11/29 第 1 回	委員長: ・佐藤 功行 弁護士 神戸駅前法律事務所 副委員長: 山岡 雅博 学識経験者(教育) 立命館大学大学院教職研究科教授 委員: ・土谷 長子 社会福祉士 皇學館大学教育学部准教授 ・難波 愛 臨床心理士 神戸学院大学心理学部講師 ・梁 英子 弁護士 まや法律事務所	

			校。 尼崎市教育委員会は学校生活などを調査したが、いじめはなかったと結論。		精神科医師を追加で選任予定	
92	2018/11/29	母子心中	宮城県仙台市泉区の寺岡小学校の女子児童(小2・8)と母親が無理心中。 2018/3/ 当時1年生だった女子児童は同学年の児童2人に登校中において行かれたり、仲間外れにされたりした。 5/中旬、朝顔の支柱でたたかれそうになった。 女子児童が母親に訴えて、直後に学校に相談。 6/ 腹痛や頭痛を訴えて校長室に登校するようになり、促されて教室に行くと同じ児童ににらまれることもあったという。 8/24 夏休み終了直前、「しにたいよ」「いじめられてなにもいいことないよ」との手紙を両親宛てに書いていた。 9/ 欠席が増え、母親も体調不良や不眠に悩むようになった。	2019/1/19 父親は市教委に対して、「娘へのいじめを学校などに相談しても対応が不十分で、母親は心身の不調を訴えるようになり、このようなことが起きてしまった。加害者や学校は謝罪してほしい」として、第三者委員会の設置を要望。 2019/3/21 調査部会を設置。	7人。市の委嘱委員4人に、遺族推薦の臨時委員3人を加える。 委員長:川端 壮康 関口 博久 宮城教育大特任教授	2020/8/18 中間 学校は女子児童が亡くなった2018年度の欠席日数は28日間と主張し、学校や市教委はこれまで「重大事態には当てはまらない」と説明しているが、調査部会は、いじめ防止対策推進法に基づく「重大事態」に当たる状況だったと答申する方針を固めた。 2020/3/9 宮城県警泉署が、校長を地方公務員法(守秘義務)違反容疑で書類送検。 2018/7/ 両親は加害児童2人の保護者との面談に向け、女子児童が考えた加害児童への質問メモを作成。 2018/8/1 表現の修正が必要かどうか確認を求め、校長にメモを手渡した。 2018/8/31 面談で、加害児童の保護者がメモを持っていたことで流出が判明。

			<p>母親は学校や市教委に繰り返し相談。校長から「いじめはあった。マニュアルに沿って対応する」と説明されたが、相手児童への指導が十分でなく、表面的な対応が続いたという。</p> <p>市教委は学校がいじめを認識し、一定の対応をしたと主張。</p>			<p>2020/3/9 宮城県警泉署が、校長を地方公務員法(守秘義務)違反容疑で書類送検。</p> <p>2018/7/ 両親は加害児童2人の保護者との面談に向け、女子児童が考えた加害児童への質問メモを作成。</p> <p>2018/8/1 表現の修正が必要かどうか確認を求め、校長にメモを手渡した。</p> <p>2018/8/31 面談で、加害児童の保護者がメモを持っていたことで流出が判明。</p>
93	2018/12/5	部活過労	<p>千葉県柏市立柏高校の吹奏楽部の男子生徒(高2)が未明、同校の中庭で頭から血を流して倒れた状態で警備員に発見され死亡が確認された。</p> <p>2019/1/ 市教委は、「いじめと体罰は確認できなかった」とする調査結果を遺族に報告。</p> <p>父親は「息子は平日は7時間、土日祝日は12時間練習していた。2年生になってから休みは2日間だけ。それなのに報告では息子に何が起きたのか十分な回答がなかった」と話す。</p> <p>同校は生徒数957人。吹</p>	<p>父親は、「所属していた吹奏楽部の厳しい練習や顧問の指導で過労自殺に至った可能性がある」として、第三者委員会の設置を求める。</p> <p>2019/12/12 柏市は、医師や弁護士らで構成する第三者委員会を設置して調査することを発表。第三者委は、教師の行きすぎた指導がなかったかについても調べる。</p> <p>http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/030100/p052240.html</p>	<p>5名</p> <p>会長:福原 亮 弁護士 副会長:安達 和志 神奈川大学教授 ・阿部 恵一郎 医師 ・細井 尚人 医師 ・宮野 モモ子 千葉大学名誉教授</p>	

			奏楽部には 200 人超が所属し、全国大会の常連校と知られ金賞も多数獲得している。			
--	--	--	---	--	--	--

「日本の子どもたち」 <http://www.jca.apc.org/praca/takeda/> ⇒ 「オリジナル資料」 http://www.jca.apc.org/praca/takeda/takeda_data.html